

毎月第3土曜日は「ご聴聞の日」。ぜひ如是我聞の会や法話会にご参加ください。

THE LIONJI NEWSLETTER

ライオン寺だより

2009年2月1日号 1992年7月1日創刊 第200号

浄土真宗本願寺派 来恩寺
〒253-0072 茅ヶ崎市今宿1-1
TEL 0467-87-5527
発行者 来恩寺住職 橋本正信

緊急告知

2月1日(日)午後3時からの
「聖典に学ぶ会」は、大分県の
田畑正久師(医師で念仏者)を迎えての
「法話会」とさせていただきます
めったにない貴重なご縁です
ぜひご参加ください
駅への迎えは2時30分です

京都 西本願寺

親鸞聖人御真影御動座法要

御影堂平成大修復完成奉告法要

京都西本願寺では、親鸞聖人の御真影(お木像)を御安置する御影堂の大修復工事を1999年から行ってきましたが、本年3月の完成に伴い4月1日に御動座法要、2日に完成奉告法要を厳修いたします。

このような法要は2~300年に一度ぐらいですので住職はぜひ参拝したいと思います。興味のある方はぜひご一緒ください。

費用は実費で、旅館はすでに確保しております。詳しくは来恩寺までお問い合わせください。先着20名が同行できます。

来恩寺

春季彼岸会法要

もうすぐ春のお彼岸の季節となりますが、今年も来恩寺では下記の通り春季彼岸会法要をお勤めいたします。

浄土真宗のお彼岸は、故人を偲びつつの仏法聴聞の期間です。ぜひ、ご家族でご参拝ください。

記

日時 3月21日(土)午後1時30分~
会場 来恩寺本堂
法話 来恩寺住職 橋本正信
迎え 12時30分頃 茅ヶ崎駅北口広場
送り 午後4時頃 来恩寺から駅北口へ

法話のようなもの

今月号から「法話のようなもの」というシリーズを掲載いたします。

「法話のようなもの」としましたのは、「法話」と断定してしまいますと肩が凝りそうです

ので「みたいなもの」として気楽に読んでいただければと思うからです。私も気楽に書けそうな気がいたします。

お釈迦さまはご自身が悟られた内容(法)を、私たちが受け止められるように仏説無量寿經というお経の中で「法蔵菩薩の物語」として示されました。

その物語は、ある国王が仏になりにたいと思ひ立ち、国や位を捨てて一人の修行僧となり、人間の想像をはるかに超えた長い時間をかけて思惟と修行を重ね、ついにあらゆるものが無条件に救われていく「救い」を完成

りえないことですが、この童話は子どもたちに「人間だけでない命の尊さ」と「約束を守る」という人の道の「まこと」を教えてくれます。人の世の法則です。

「鶴の恩返し」を読んでそこに説かれている人の道を皆さんはウソだ思うでしょうか。物語は架空ですがそこには「まこと」が示されているのです。それと同じように仏説無量寿

お釈迦さまと阿弥陀さまの違いは？

第一回目は「お釈迦さまと阿弥陀さまの違い」について書いてみました。さっそくお読みください。

お釈迦さまと阿弥陀さまの違いは、お釈迦さまは歴史上の人物であり、阿弥陀さまは架空の存在(人物)です。

しかし、阿弥陀さまが架空の存在だからといってウソということではありません。

させ、阿弥陀仏という仏さまになられた、という物語です。この物語は現実にはありえない架空の物語ですが、人間が人間の価値観を超えた仏の価値観に出会い、永遠の命の中に生きることができ「まこと」の救いが説かれているのです。

例えば「鶴の恩返し」という童話を考えてください。普通、鶴が機を織るなんてことは現実にはありえません。あ

経の「法蔵菩薩の物語」も現実にはありませんが、人間の思慮分別(価値観)を超えたところにある涅槃(真のやすらぎ)に至る道が示されているのです。私たちは「法蔵菩薩の物語」に出てくる阿弥陀さまを手だてとする以外、人間の価値観を超えた救いの道、法則を領解・理解することは出来ません。

親鸞聖人はこのような法蔵菩薩の物語を『一念多念証文』で、

「この一如宝海よりかたちをあらはして、法蔵菩薩となのりたまひて、無碍のちかひをこしたまふをたねとして、阿弥陀仏となりたまふがゆゑに、報身如来と申すなり。これを尽十方無碍光如来となづけたまつれるなり。この如来を南無不可思議光仏とも申すなり。この如来を方便法身とは申すなり。方便と申すは、かたちをあらはし、御なをしめして、衆生にしらしめたまふを申すなり。」と示されました。

「一如宝海」とは人間の思慮分別を超えた真実・価値観・法則のことです。「法蔵菩薩の物語」は人間の思考の尺度をはるかに超えた表現であふれております。

つまり、真実の法は、私たち人間の思慮分別・価値観で「納得する」「信じる」ことは不可能であり、私の納得を離れたところにあることを示しているのだと思います。

一度、頭を空っぽにして、そのまま「法蔵菩薩の物語」を読んでいただければと思います。

「涅槃会におもう」
ねはんえ

三大仏忌という言葉をご存じでしょうか。お釈迦さまのご生涯の中で、特に重要な意味を持つ三つの大きな出来事、ご誕生、さとりに、そして、お亡くなりになられたこと、この三つの出来事に思いを馳せる記念日のことでもあります。二千五百年も昔のインドのことですので、早くから正確な日時はわからなくなっていました。たよりますが、中国や日本では、四月八日がお誕生日（灌仏会、花まつり）、十二月八日（成道会）、そして、二月十五日がお亡くなりになられた日（涅槃会）とされてきました。

二月は涅槃会の月にあたりますので、お釈迦さまの涅槃会について少しご紹介してみたいと思います。はじめに、なぜ、お釈迦さまが亡くなられた記念日を「涅槃会」と呼ぶかについてご説明いたします。涅槃という難しい漢字は、インドの古い言葉で「ツバーナ（もしくはニルヴァーナ）」という語を音写（当て字）したものです。ニツバーナという言葉は、「（火などが）吹き消された状態」というような意味で、仏教では「苦しみや煩悩（の火）が吹き消されて無くなった状態」、つまり「教の目指す最高の境地」「さとりのことを涅槃と呼んでいります。お釈迦さまは三十五歳でさとりをひらかれた（「成道」とも呼びます）と伝えられています。お釈迦さまは三十五歳でさとりをひらかれた時点を言えるのです。しかしながら、三十五歳でさとりをひらかれた後も、肉体を保持していることに伴う様々な苦しみ、たとえは、体調を崩したとか、年齢による肉体の衰え、等々からは完全には離れることができなかったわけですから、それらの煩悩は、やはり八十歳で亡くなったのは、時であろう、と後の人びとは考えたのです。

このようなことから、亡くなられた時にこそ「完全な涅槃」に入られたのだ、と理解されるようになったのです。

東京都光明寺 石上和敬師
築地本願寺新報より転載

来恩寺

花まつりボウリング大会

今年は4月11日(土)午前10時から。会場は国道1号線「今宿」信号そばのビッグウェーブと来恩寺で。大人1名1500円、ボウリングをしない大人と中学生以下は無料です。今年も豪華な賞品をご用意いたします。3月末日までにお申し込みを！

来恩寺

えい たい きょう
永代経法要

永代経法要とは、故人をご縁として私のところまで届いた阿弥陀さまの救いを、さらに永代に(子々孫々まで)伝わりますようにと願って営まれる法要です。

今年は4月18日(土)午後1時30分から。ご講師をお招きして厳修いたします。

本願寺ハワイ教団

だいおんき
親鸞聖人750回大遠忌法要と

開教120周年記念行事参加

本願寺ハワイ教団では本年9月5日(土)と6日(日)の両日、「親鸞聖人750回大遠忌法要」と「本願寺ハワイ教団開教120周年記念法要」が勤まります。

来恩寺では本山の企画する団体参拝に参加し、現地で慶びを共にしたいと思います。ぜひご賛同いただきご参加下さい。

日程は9月5日～11日、主な行事はご門主夫妻を交えた記念晩餐会。ご門主ご親修の法要。ホノルル別院での現地門信徒との交流会など。宿泊と晩餐会・法要などの会場はワイキキのヒルトン・ハワイアンビレッジ・ビーチリゾート&スパです。日本からの参加募集人数は1000名ですので、なるべく早めに来恩寺までお申し込み下さい。

法座・催し物・ご案内

ほのぼの法話会

毎月第3土曜日午後1時30分から「ほのぼの法話会」を開催しておりますが2月は21日。3月も21日ですが「彼岸会法要」となります。迎えは駅北口広場(コージーコーナーの所)に12時30分頃です。お気軽にご参加ください。

によぜがもん 如是我聞の会

毎月第3土曜日午前11時から、身近な問題をみんなで話し合う「如是我聞の会」を開催中です。2月と3月は21日午前11時からで午前10時30分に駅北口にお迎え。午後は法話会ですので、お弁当持参でお越しください。

親鸞聖人750回大遠忌 鎌倉組記念行事

期日	2009年5月24日(日)
会場	鎌倉芸術館大ホール
内容	「記念法要」「記念講演」
講師	島田洋七氏
入場料	1名2千円(全席自由) チケット申込みは来恩寺へ

宗派不問 永代共同墓地

宗派不問の永代共同墓地。お友だちにもお知らせください。生前予約も可です。
名称 永代廟「永遠の絆(とわのきずな)」
費用 遺骨一体20万円(小学生以下)
大人の遺骨は一体35万円です。
年間の管理費等は一切必要ありません。

雑記

この「ライオン寺だより」が、ついに二百号を迎えました。

一九九二年七月号が創刊号でしたので、十六年と八カ月が経過したことになり、飽き症で三日坊主の私(住職)にとつては奇跡としか言いようのない出来事です。

創刊の理由は、葬儀やご法事でご縁のあった方(特に喪主)に、仏事の場だけでなく引き続き浄土真宗のみ教えを聞いていただきたいという願いがあったからです。

特に仕事や健康状態等で、法話会などのお寺の行事に参加できない人に「こんにちは、お寺からやって参りました」と、気軽に家庭を訪問できるこの「ライオン寺だより」は、来恩寺の宝であり、住職の頼もしい助っ人でもあります。また、この「ライオン寺だより」は、来恩寺のインターネット・ホームページとも連動しており、PDFファイルに変換してメールマガジンとしても配信しておりますので、皆さんのご家族やお知り合いの中に、パソコンでインターネットを利用している人がお

られましたら、ぜひメールアドレスの読者登録(無料)をお勧めください。(携帯電話のメールには非対応です。)

それにしても「十六年と八カ月もよく続いたものだ」と、我がことながらつくづく関心いたしますが、読者の皆さんにも「飽きもせずによくお付き合ってください」と、驚愕の想いを持っております。

とにかく、今後も充実した誌面作りを心がけ(住職の考える「充実」とは「面白い」「笑える」と同義語です)、「来恩寺でよかった」と皆さんに喜んでいただける寺院活動を展開したいと思えます。

皆さま方も、住職と一緒に楽しく寺院作りにご協力ください。そのためには、参加できる行事には積極的にご参加いただき、楽しい笑顔と優しい言葉を振りまいていただければと思います。

皆さん最初は不安な想いで行事に参加されるようですが、大丈夫、すぐに来恩寺の雰囲気、打ち解けられるはずですから、住職が単純で分かりやすい性格だからです。という事で今後もよろしく。